

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 25 年度

事業所番号	2775600675		
法人名	有限会社 五和会		
事業所名	グループホーム平和苑		
所在地	大阪府泉南市樽井1丁目6番1号		
自己評価作成日	平成 26年 1月 6日	評価結果市町村受理日	平成 26年 2月 24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2775600675-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 26年 1月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・医療連携が充実しているため、早期発見・受診等早く対応できている。又、医師・看護師との協力で看取りに取り組む準備ができ、実際に看取りの事例がある。
 ・レクリエーションが充実し、個別対応から集団レクまで様々な職員の取り組みがある。また、様々な行事で多くの家族の参加が得られている。亡くなられた利用者家族のボランティア協力で地域交流の為に布草履教室を継続して開催している。地域の方々が自由に集える平和苑カフェも開催している。
 ・全職員がケアプランを把握できるよう、ケアチェック表を作成し、職員自身がチェックし日々プランの実践ができるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣接する医療法人の系列として運営するグループホームです。職員全員で考え作り上げた、「ありのまま今を輝かす暮らしを応援します！愛と笑顔あふれる心の家族を目指します！」の理念を実践しています。運営推進会議が有効に機能し、地域や家族との連携の良さは、利用者の暮らしを豊かにしています。母体の病院とは医療連携体制がとれており、毎日の体調管理や通院は本人や家族に安心してもらっています。また重度化、終末期の受け入れ等、本人や家族の意向を聞きながら柔軟に対応しています。個別外出にも工夫して取り組み、ほぼ全ての利用者が行きたいところに出かけることができている。管理者・職員がお互いに思いやる職場環境は、利用者への温かいケアの実践に繋がり、穏やかな温かい雰囲気を作り出しているグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念を再構築し直し、介護する上での基本姿勢にするようにしている。	「ありのまま今を輝く暮らしを支援します！愛と笑顔あふれる心の家族を目指します！」の理念は、職員全員で作りました。職員は自分たちで作った理念に誇りを持ち、実践しています。理念を基に、月間目標を立て、より具体的に実践できるように工夫しています。	今後、事業所の理念が地域や家族にも理解・支持され、地域密着型サービス事業所として、さらなる発展に繋がることが期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣組参加。地域住民参加の布草履教室を月2回開催。昨年12月地域住民が自由に集える平和苑カフェを開催。地域住民参加の花火大会・避難訓練。入居者の個別の地域への外出支援。	地域との交流には積極的に取り組み、今年は隣組の組長を引き受けています。月2回の布草履教室をきっかけに、地域との輪がより広がっています。昨年12月から、介護の悩み・喜び・感動を分かち合える場として、地域住民が自由に集える「平和苑カフェ」を開催しています。ホームでの花火大会や避難訓練等の行事の際は、地域にも知らせて参加を得ています。実習生も積極的に受け入れ、利用者も楽しみにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	泉南市地域密着型事業所交流会を毎月開催。各事業所の実践例等を話し合っている。泉南市広報に認知症当事者・家族の思いを掲載している。平和苑カフェでは地域の方々やグループホームのご家族様方が、認知症の人の理解や予防などを話題にしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、行事の内容や入居者の身体状況等の報告をしている。また、困難事例等も報告し、頂いたご意見を参考にし、外部評価については報告している。	運営推進会議は、利用者・家族・民生委員・市職員・地域包括支援センター職員・介護者家族の会代表の参加で開催しています。運営推進会議が有効に機能し、会議では、事業所側から報告をするだけでなく、事業所内で困っていること、悩みを理解してもらいアドバイスを求める場としても活用し、サービスの向上に活かしています。会議で出た意見から、「平和苑カフェ」の取り組みや夜間対応の避難訓練を実現するに至りました。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回 参加して頂き、毎月発行している平和苑だよりで自施設の様子を理解して頂いている。	市役所が近いこともあり、相談事があれば市の担当者に相談できる関係を構築しています。市が実施している小・中学生への認知症の啓発活動にも積極的に協力しています。毎月発行している「平和苑だより」は、市からの理解や連携にも活かされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を行い、職員間で認識を共有している。 見守りを強化しつつ、玄関開放の時間を作っている。	身体拘束については、マニュアルを作成し、研修も実施しています。玄関は、日中は開錠しており、2階にある居住フロアへ行くエレベーターは、自由に乗り降りができます。各ユニットの入口ドアについては、事前に散歩等で外出することがわかっている場合は開錠しており、利用者は自由に外出ができます。	「鍵をかけないケア」について職員全員で検討し、日中は開錠する時間を長くする等、今後も利用者のより自由な暮らしの支援ができるよう期待されます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を行い、職員間で認識を共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、全員で周知できるように資料を閲覧している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明で十分に説明、理解して頂いている。改訂の際には、重要事項変更同意書を作成し、理解・納得を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	半年毎に担当者会議を開き、ご家族・ご本人の思いや意見を伺っている。また、面会時にも伺うよう心掛け、苦情等あれば運営推進会議で報告。その内容は運営推進議事録で全家族に報告している。	面会時やサービス担当者会議、運営推進会議等で、家族の意見や要望を聴くことを心掛けています。毎月の「平和苑だより」は、ホームの日常がよりわかるように工夫しています。個別外出と1ヵ月の生活状況を、写真入りで報告書として送っています。家族会では、スライドショーが恒例になっています。利用者全員の顔写真が入った年賀状は、亡くなった利用者の家族にも送り、一緒に生活した方たちの元気な姿を伝え喜んでもらっています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週ミニカンファレンスという会議を行い、職員から問題定義があれば、検討し、話し合ったケアの内容等を1週間取り組み再検討している。	管理者は常に、どんなに小さいことでも聞く姿勢を心掛けています。毎週のミニカンファレンスでは意見を出し合い、サービス向上に向けて話し合っています。職員にアンケートをとり、悩みや思いを聴くことができ、管理者はメンタルケアについても熱心に考えています。管理者・職員相互に思いやりがあり、チームワークの整った職場環境になっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>1年の反省・頑張った事・不安や悩みをアンケート方式で全職員に記入してもらい、年1回個人面談を行い、来年の目標・それを達成するには？と課題を明確にし、アドバイスをしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修への積極的な参加を促し、伝達講習も行っている。どのような研修を望むかアンケートを取り、それぞれが望む研修を企画し、不安なくケアに取り組めるよう努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>泉南市地域密着型事業所交流会で、情報交換や連携を図り、いつでも職員の交換研修を受け入れ出来るようになっている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご本人の思いを傾聴し、不安なら気軽に見学してもらう事、体験利用が可能。ご本人との関係性を築くよう努め、安定的に利用に移行できるよう努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	気軽に見学に来てもらい、家族の不安な思いを傾聴している。体験利用をし、安定的に利用に移行できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時のご本人、ご家族等の事情や要望を元に、何が必要か見極め、事業所としてできる限りの対応に努めている。必要に応じて他のサービスの利用を薦めたりもしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と喜怒哀楽を共にする事の重要性を理解し、利用者と共に感じられるよう日頃から努めている。食事作りや洗濯干しなど、家事、作業の場面では能力を発揮して頂き、共に支え合う関係作りをしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	隔月の個別報告と来苑時の近況報告で、ご家族に把握して頂けるようにしている。担当者会議にはできるだけ家族に参加してもらい、思いを聞き出すようにしている。行事にも家族の参加を呼びかけ楽しみを共感し、事故については共に対策を検討してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	慣れ親しんだ近所の美容院や買い物など継続して通える支援をしている。近所のご友人の面会を受け入れ、電話も好きな時にかげられるようにしている。	職員は、利用者が馴染みの美容院や買い物へ付き添う支援をしています。友人が面会に来たり、イベントに参加してくれることもあります。馴染みの方たちとの付き合いの中から、利用者の人生を知ることあり、一人ひとりの人生に思いを馳せることを職員は学んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に支えあって暮らす大切さを職員は十分に理解している。利用者の個性や能力を把握し、利用者同士の協働の場面（調理・洗濯等）を多く支援し、利用者同士の支え合う微笑ましい場面は共に喜び認め支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了のほとんどが入院なので、お見舞いに伺い、今までと同様に利用者には声掛け励まし、ご家族にはこれまでのご本人の生活状況や思い出、ケアの工夫等の情報は伝え、精神的にも支援の継続はしてきた。亡くなられた利用者家族との年賀状でのやり取りをしたり、利用者が亡くなられた後もボランティア協力や気軽に立ち寄って頂けるよう声掛けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ言葉を引き出し、表情などから真意を推し量り把握に努めている。意思疎通が困難な方はご家族から伺っている。食の好みにも個別に対応している。	利用者一人ひとりの希望や意見を聞きとり、家族からも情報を得て、日々の支援にあたっています。ケア記録は、利用者との会話や表情が伝わる記録の取り方になっており、職員間で共有しています。職員が集めた情報「何でも情報」には、利用者の「したいこと」と「したくない」項目を作り、その人らしい暮らしの実現に活かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全職員が半年毎に「何でも情報」として、お一人ずつの生活歴や好きな物、嫌いな物などの情報を集め記録している。面会時にご家族との馴染みの関係作りに努め情報を提供して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別援助計画書で、お一人ずつの一日の過ごし方を把握し、心身状況に合わせて随時見直ししている。さらに「何でも情報」で、出来ること出来ないこと等を把握。新たな発見があれば、追加記入し全職員が把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人や家族には日頃の関わりの中で、思いや意向を聞き反映させるようにしている。「何でも情報」の見直しにより全職員でアセスメントし、半年ごとの担当者会議ではご本人・ご家族と共に意見交換している。毎週のミニカンファレンスでは困難事例等を話し合い、取り組みの継続後、介護計画に反映している。</p>	<p>利用者・家族から思いや希望を聞き取り、サービス担当者会議で検討し、介護計画を作成しています。担当者会議には、本人や家族も出席します。遠方で出席できない家族には、電話で意向を聞きます。介護計画の内容を、職員全員が見てわかるよう簡素化した「ケアチェック表」は、関わった担当者が毎日の実施状況を「正」の字で記録し、モニタリングに活かしています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケアチェック表にて毎日のプランの実施状況を把握でき、介護計画見直しに生かしている。個別記録にも状況を記録し、伝達ノート等も活用し情報を共有している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>通院支援・リハビリ通院支援・個別外出支援・入退去時の荷物運搬支援など、ご本人やご家族の情報に応じて柔軟に対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>馴染みの美容院・スーパーの利用。泉南市介護者家族の会の催しへの参加。消防署との合同避難訓練。困難事例の地域包括支援センターへの相談等で地域資源と協働している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の連携医療機関や今までのかかりつけ医・希望の病院を受診している。基本は家族同行の受診だが、必要に応じ受診に付き添いもしている。また連携医療機関からは訪問診療に来てもらっている。	入居前からかかりつけの医療機関へは、利用者の希望があれば受診することができます。母体法人が病院であることで、医療連携体制がとれており、毎日看護師によるバイタルチェックや薬の管理、通院等は、利用者・家族・職員の安心に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医療機関の看護師とは24時間連絡を取れる状況にある。毎朝看護師と連絡を取り、利用者の体調報告をし、受診が必要と判断されればすぐに対応している。看護師による服薬管理と、看取りの相談もできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際病院関係者に情報提供し、ケアについて話し合っている。また担当医には短期間の治療で早期退院できるように伝え、家族・病院関係者との話し合いの場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご本人やご家族の意向を踏まえ、連携医療機関の医師・看護師と職員が連携をとり、安心して納得した最期が迎えられるよう、随時意思を確認しながら取り組んでいる。定期的な研修会で知識・技術向上に努め、問題点や不安なことに対し話し合い解決できるよう事業所全体で取り組んでいる。ご家族にも事業所の取り組みを公開し、了承を得ている。</p>	<p>終末期に関しては、家族・医師・看護師とホーム職員で話し合います。これまで看取りケアを実施した利用者もいます。家族会や運営推進会議で看取りについて話し合う機会も作りました。看護師長による、研修や介護技術研修も実施しています。現在、看取りケアのマニュアルを作成中です。</p>	<p>今後は、重度化や終末期に向けた支援について、職員の不安材料を解消するために、現在作成されているマニュアルに、職員の声を反映されてはいかがでしょうか。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>利用者の身体状態の急変や事故発生時にも慌てず適切な行動が取れるよう研修会で学び、応急手当について訓練も実施している。連携医療機関への連絡、救急車の手配などの模擬訓練も実施している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>マニュアルを作成し利用者と共に避難訓練・夜間火災を想定した夜勤者対象の避難訓練も実施している。年1回は消防署との合同避難訓練があり、近所の方にも呼びかけ参加して頂いている。災害時に備え食料・水・カセットコンロ・ポータブルトイレを準備している。</p>	<p>災害時対応マニュアルを作成しています。避難訓練の際は、地域住民にも参加の呼びかけを行っています。消防署の協力を得て、「夜間にテレビコンセントから漏電」を想定し、避難訓練を実施しました。さらに事業所内でも、夜勤をする職員全員で、夜間想定避難訓練を実施する予定です。非常災害時の食料品や水、備品等の備蓄も行っています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩である事に敬意を払い、丁寧な言葉かけを心掛けプライドを損ねないよう全職員が気をつけている。毎年ミニカンファレンスで言葉遣いについて話し合い実践している。排泄の際の誘導や援助についても配慮ある関わりをしている。	管理者は、日常の中で利用者の尊厳に配慮したケアについて、職員に具体的に伝えていきます。職員は、「自分が家族だったら」と振り返ることを大切にしています。「何でも情報」の中の「したくない」ことには「せかされたくない」「目立ちたくない・注目されたくない」等、利用者が好まないことを記載し、職員は利用者の思いを把握してケアにあたっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お好きな飲み物を伺ったり、個別外出時やお誕生日に食べたい献立などの好みを伺い、希望を聞き出す。その日に着たい洋服を選択して頂く等、自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調が悪い時、眠い時間帯、お好きなテレビ番組、音楽鑑賞等その方に合わせた過ごし方をさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	アクセサリ・化粧品・洋服等個別外出時に、お好みの物を購入して頂いている。毛染めを希望される方は馴染みの美容院にお連れしている。洋服もできる限り自己決定できるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑と一緒に収穫した野菜や旬の食材を使用し、調理・盛り付け・片付けを職員と一緒にして頂いている。献立は職員が立てるが、誕生日だけは食べたい物を伺っている。朝食はパンとご飯を選択して頂き、夕食時は希望者にはアルコールを提供している。	食事は3食とも、ホーム内で作っています。献立は職員が立て、母体法人の管理栄養士にチェックしてもらいます。調理・盛り付け・後片付けは職員と利用者が一緒に行います。献立は利用者が書いてくれています。入居する前は、何もできないと思われていた利用者が、ホームでは食事の準備に積極的に関わり、生き生きした表情で過ごしています。夕食には、梅酒やビール、焼酎等、飲酒している利用者もいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎年水分摂取量を1週間調査し、個々の水分量を把握している。体重測定を実施し、医師の指示がある方には食事量・水分量の調節やトロミ剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。ご自分で出来る方は声掛けのみし、出来るだけご自分で行って頂き、不十分な場合は支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者のサインを見逃さないようにし、身体機能に応じて支援している。日中はトイレでの排泄を支援しオムツ類も身体機能に応じて使用している。排泄チェック表を使用し、尿意・便意のない方は時間を見計らって誘導しトイレで排泄できるよう支援している。	利用者の排泄サインに気をつけ、便は排泄チェック表も利用して、便意や尿意のない方は、時間を見計らって居室のトイレへ誘導しています。自宅では、1日中トイレばかりが気になっていた方が、ホームで排泄が安定し、調理等、他の作業にも参加されるなど、活動的になられた事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食事で出来るだけ水分や食物繊維を摂取出来るよう支援している。ご家族持ち込みの米ぬかを摂取している方もいる。便秘気味な方は排便周期を把握し、下剤の量を調節しつつ排便コントロールしている。毎日体操もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴回数や入浴順の希望は伺っているものの入浴日と時間は決めてしまっている。入浴時は気の合わない方同士は一緒にならないよう、気の合う方同士は一緒にと配慮している。身体能力や体調に応じ機械浴を実施している。	家庭用浴槽も利用できますが、ほとんどの方がデイサービスの大浴場や機械浴場を利用し、午後3時からの入浴になります。入浴チェック表で全員の1ヵ月間の状況が把握できます。入浴の好きな方は、隔日入浴ができます。身体能力や体調に応じて機械浴も利用できます。ゆず湯など、季節ごとに楽しんでもらう工夫もしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠時や体調が悪そうな時は日中帯も臥床して頂くよう配慮している。なかなか寝付けない方や中途覚醒された方には温かい飲み物を提供したり、じっくり傾聴する等、安心して入眠できるよう支援している。また、室温も小まめに調節するようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や臨時薬の処方があった時は受診伝達ノートにて全職員で情報を共有し、状態等の変化があればすぐに医師に報告している。またいつでも調べられるよう服薬ファイルをヘルパー室に保管している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道・裁縫・調理・新聞・雑誌・歌・個別外出での外食・買い物・ドライブ等、能力・好みに合わせた楽しみ毎を提供している。希望者の好みに合わせた晩酌の提供をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	馴染みの美容院や、個別外出でご本人が希望される場所に出かけ楽しんで頂いている。気候が良ければ散歩にも出かけている。花見や遠足といった行事を企画し、ご家族にも参加して頂いている。毎朝一人で散歩をされている方がいらっしゃる。	毎月の個別外出支援では、全員の方が希望する所へ外出しています。リハビリや通院の機会を利用して、散歩や買い物等に出かける工夫もしています。ホームの身近なところにある市運営の「おいでや」等も気軽に利用し、地域の人々とも交流しています。家族の同意を得て、毎朝一人で散歩をされている利用者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどが職員同行なので、一緒に支払い等のやりとりをし、個人のお金である事を意識して頂くようにしている。個人の財布をお持ちの方は普段は金庫で預かり、外出の際に渡すようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば年賀状等を書いて頂く。電話はいつでも掛けて頂けるように専用の電話を設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内でも季節を感じていただけるよう壁面担当者が利用者と共に作成した作品を壁に飾り付けている。台所ではいつも調理の音やにおいが楽しめている。トイレは各居室にありゆっくり安心して排泄して頂ける。空調管理には常に気を配っている。	壁面担当者を決め、利用者と一緒に工夫して作成した作品が季節を感じさせています。食堂は、台所からの匂いや音、調理の様子がよくわかる家庭的な雰囲気になっています。廊下やトイレ等の共有部分は毎日消毒を行い、安全と清潔にも気を配っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでゆったりくつろぎ、お話しして頂ける空間がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅での馴染みの品々（家族の写真・神棚・信仰している宗教の物・化粧品セット・趣味の品等）をもちこんで頂いている。	居室の入り口には、手作りの写真入れを飾っています。居室には、タンスやテレビは常設していますが、馴染みの品々を持ち込みされており、利用者にとって便利で過ごしやすいように工夫しています。好きな歌手のカレンダーを貼っている方や、健康器具を持ち込みされる方等、個性のある居室となっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>歩行不安定な方の居室には食堂の椅子や低い棚等を並べ手すり代わりにしたり、見当識障害で混乱のひどい方には居室ドアに今日の日付やりハビリ・入浴の予定を記入出来るボードを置き、混乱の予防に努めている。歩行意欲向上のため廊下の端に歩行練習チェック表を張り出し自己にて印付けをして頂いている。</p>		